



にじのはし幼稚園 園だより

平成27年 7月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 新井智子



幼児期の話し言葉を大切に

園長 新井智子

「葉っぱのところにぶどうがある！」3歳児が、アジサイの小さな蕾の集合体を見て、思わず口に出しました。子どもの感性と表現にいつもながら驚かされ、微笑ましく感じます。

6月上旬に行われたお台場学園との合同の運動会では、大勢のご来賓、地域、保護者の皆様に見守られ、雨上がりの爽やかな気候の中で盛大に挙行することができました。恒例になった「レインボーマーチ」は、友達と動きを合わせてのびのびと踊り、かけっこはゴールを目指して元気よく走りました。終わった後も、「楽しかったね」と話題にしたり、絵にかいたりしていました。また、4歳児が3歳児に踊りを教えて一緒に踊る姿も見られました。

一つの行事を楽しさや満足感で終えることで、日々の遊びにも変化が見られます。目に見えてわかるのは、おしゃべりが多くなることです。「伝えたい」「聞いてほしい」「答えたい」と、教師や友達との会話が活発になり、遊びもアクセルを踏んだように勢いが増してきます。子どもたちの言葉は、このように遊びとの相乗効果で豊かになっていきます。

幼稚園での言葉の教育というと、思いつくのが絵本や紙芝居の読み聞かせでしょうか。文字に触れさせて関心をもたせることでしょうか。入学を控えた年長児のお家の方からはよく「幼稚園から文字は読めたり書いたりできたほうがいいですか」という質問が寄せられます。絵本や紙芝居は、情操面をはぐくみ、その時間は、子どもたちも大好きです。また、様々なところで目にする文字は、ものや人の名称を覚え、事柄の表し方を知る機会となり、文字に関心をもち親しむことにつながります。興味関心をもち、自然に読み書きができるようになる子どももいます。

では、幼児期に一番大切にしたい言葉の教育はなんでしょう。それは、「話す」ことだと言われています。幼児期に、話したいという意欲や態度をはぐくみながら、入学までには、読み書きよりも、生活の中で獲得する話し言葉の語彙が多くなること、「水を飲む」「砂場で遊ぶ」など助詞が使い分けられるようになることが大切なのです。最近の流行言葉の影響で、「チョー ヤバイ」「はやっ（早い）」「テレビ 見る」など、短い言葉にして、言い方次第で一つのことを何通りの意味にも使い、助詞を抜かして話すことが多くなっています。自戒を込めて、助詞抜きで話す教師が増えているのも現実です。きちんと話し言葉が確立すると、スムーズに書き言葉にも対応し、文法の使い分けを知り、複雑な表現ができるようになっていきます。言葉は、時代とともに移ろうものですが、幼児期にこそ大人が語りかけややりとりの中で、語彙や言い回しに心がけ、話し言葉の素地をつくり豊かな言葉にしていきたいと思います。



今年もお台場の海で地引網をしました。ボラ、クロダイ、エビ、たくさんの稚魚に出会いました。

